

第6期（平成30－令和元年度）

境港市みんなでまちづくり推進会議 提言・実践報告書

「U・Iターンしたくなる境港へ」

令和2年3月

第6期境港市みんなでまちづくり推進会議委員

< 目 次 >

はじめに	1
1. 提 言	2
2. 境港市の人口の現状と課題	5
3. 活動報告	6
4. 会議開催経過	8
5. 委員等名簿	9
報告Ⅰ まちづくりのためのワークショップ実践報告～一例として～	
1. ワークショップについて	10
2. ワールドカフェについて	10
(1) 用意するもの	11
(2) 事務局の役割	11
(3) 司会者の役割	12
(4) 参加者の役割	12
(5) ホストの役割	13
3. ワールドカフェの流れ	14
4. 模擬審査会について	15
別冊 島大生から境港市長への提言書	
「U・Iターンしたくなる境港へ ―5つの施策」	

はじめに

境港市みんなでまちづくり推進会議は、平成19年に「境港市みんなでまちづくり条例」の実効性を確保するために、促進・参加・協働・支援の実施状況の評価や、協働事業の提案に関する審査などを行う機関として設置されました。

第5期（平成28-29年度）においては、12人の委員により、市民活動推進補助金の審査、参加と協働の実施状況の評価、「若い世代の（行政）参加」について協議を行い、2年間の活動を事業報告書としてまとめ、市長に提出しました。

第6期（平成30-令和元年度）においては、委嘱当初より、市長へ提言ないしは報告を行うことを目標とし、「U・Iターンをしたくなるまちづくり」を今期の取組テーマと決め、島根大学法文学部教授 毎熊 浩一氏(※)をアドバイザーに迎え、地元高校生や島根大学生、境港市への移住者とワークショップの実践や協議を重ね、本提言書の作成に至りました。

本提言書の内容は、精緻なデータ分析に基づく、あるいは、全ての意見を代表したものではないものの、声をあげる機会の少ない若い世代や県外から移住されてきた方々からの境港市をより良いまちにしたいという生の声が反映されたものとなっております。

また、ワークショップに参加した島根大学法文学部の学生の皆さんも提言書として取りまとめられたので、あわせて提出いたします。

市におかれては、この提言書に込められた想いを受け止め、今後の市政運営に生かしていただくことを期待しております。

最後に、本提言書を作成するにあたり、私たちは計3回のワークショップを実施しました。ワークショップは活発な意見交換につながり、課題解決に効果的であることから、行政だけでなく、自治会や市民活動においても盛んに行われる必要があります。私たちの活動がワークショップ実施への一助となるよう「ワークショップ実践報告～一例として」を作成しました。こちらもご活用していただくようお願いします。

第6期みんなでまちづくり推進会議委員 一同

※毎熊 浩一 氏

島根大学法文学部教授。行政学を専門とし、参加と協働に関する実践的研究等を行っている。境港市においては、「境港市みんなでまちづくり条例」の策定を行った「境港市協働のまちづくり推進懇話会」や「境港市議会基本条例市民検討会議」のアドバイザーを務められ、また、本推進会議では第3期からアドバイザーを務めていただいている。

1. 提言

私たちは、本市の人口の現状と課題を踏まえ、ワークショップの参加者の意見をもとに、以下のとおり提言します。

(1) 今ある資源の活用と“ここにしかないもの”の創造

鬼太郎や魚、海など境港には良いものがたくさんあります。行政は、これらの今ある資源をより活用し、情報発信することはもちろん、ここに住んでいる市民一人一人が境港の良いところを知って、積極的に境港のアピールをすることが必要と考えます。

しかし、市民は、このまちの良さを知っているでしょうか。まずは、ここに住む市民がこのまちの良さを体験し、知る必要があります。口コミの力は大きなものです。市民の発信力を最大限に活用することが大きなシティプロモーションになると思います。

例えば、大規模な組織である「自衛隊」では定期的に多くの人々が転出入しており、境港市民となった方々に境港市の良さを体感してもらうための市民との交流の場を設け、市民との関わりの中で積極的にPRをすることにより、境港市への定住や、転勤された後でも境港ファンの全国展開につながるものと思います。

そのほかにも、小中学校で導入される英語教育を基本に、境港市を玄関口として訪日される外国人に対し、児童・生徒によるおもてなしの実践といった、子どもたちにとっても思い出に残る郷土愛を育む授業や、全国的に知れ渡る「境港といえはこれ」というものを新たに作り、全国にPRしていくことも必要と考えます。

ワークショップで出た主な意見：

- ・鬼太郎・魚・海など情報を常に発信し続けることだと思います。
- ・「マグロ大食い・カニ大食い選手権」等、県外者を呼べる大きなイベントを開催してほしい。
- ・港をもっと楽しく（横浜みたいに）。
- ・自衛隊を対象とした店がない。基地の周辺が寂しい。
- ・自衛隊相手の観光産業！！独身隊員は外でお金を使いたい！！
- ・“ここにしかないもの”をこだわって創造すること。
- ・境港ではなければならない看板となるものがある。例えば、教育の充実など。
- ・自然環境の良さを生かすビジネス。林間学校的合宿。

(2) 移住者専門のコーディネーターや移住者を中心とした組織の設立

移住希望者が移住を検討するにあたっては、「仕事」「住まい」「生活環境」「人との交流」など不安な点がいくつかあります。親身になって相談に乗り、支援する移住者専門の窓口やコーディネーターが必要だと思えます。

コーディネーターや移住者同士が相談し合える組織があれば、仕事や住まいのフォローが受けられる、また、地域で仲間ができるという安心感が生まれます。

さらに、行政と市民が協働でまちづくりを進めていくにあたって、別の地域での生活を経験してきた移住者の意見は参考になる点も多く、組織化することで、今後、新たな視点からのまちづくりプロジェクトの立ち上げも期待できます。

ワークショップで出た主な意見：

- ・移住を決めるには何かしらの縁が必要で、家・仕事・友人などが確保できると思ってもらえるようなPRが必要だと思えます。
- ・U・Iターンしやすいように新卒以外の仕事。後継ぎ問題もあるのでうまくコーディネートできると良い。
- ・新しく入って来られた方でも生活しやすくなるようなネットワークや支援制度の充実が必要だと感じました。
- ・NPOなどの団体がなく、移住・定住が促進されていない。活動団体が少ない。
- ・U・Iターン者がもっとアピールする。
- ・(ワークショップに参加して) 移住者同士の横のつながりができたことが大きな収穫でした。
- ・境港に住んでいる人々が楽しく住めるようなまちづくりを考える必要があると思えます。いろんな世代・移住者の方も含めた意見交換の場は重要だと思うので、さまざまな経験を持っている方々との交流を通して、まちづくりに生かしていくことが必要だと感じました。

(3) 交通網の整備と不便さを感じさせない工夫

高校生とのワールドカフェで特に多かった意見が「交通の便が悪い」というものでした。

大人になれば車を運転できる人が多く、不便はないかもしれませんが、観光客や移住者がみな運転できる人ばかりではありません。夜間には、はまる一歩バス・タクシーが共に走っておらず、外出に不便という意見があり、課題であると言えます。

また、「娯楽が少ない」という意見も多かったことから、学生が集まって電車の待ち時間を過ごせる場所があると良いと考えます。

ワークショップで出た主な意見：

- ・ 電車・バスの本数が少ない。
- ・ もう少し遠くに車を持っていなくても、簡単に行ける手段がほしい。
- ・ シェアリングがあったら便利。
- ・ お酒を飲んで帰るのに不便（はまる一歩バス 19 時で終わり？）
- ・ タクシーがない（夜飲んだ後に帰れない！自動運転に期待）。
- ・ JR・はまる一歩バス・飛行機（ANA）の接続が良くない。観光客が便利に使えるようにすれば利用者は増える。
- ・ 電車を待つ場所がない。
- ・ 遊ぶところがない

（４）まちづくりにおけるワークショップの活用

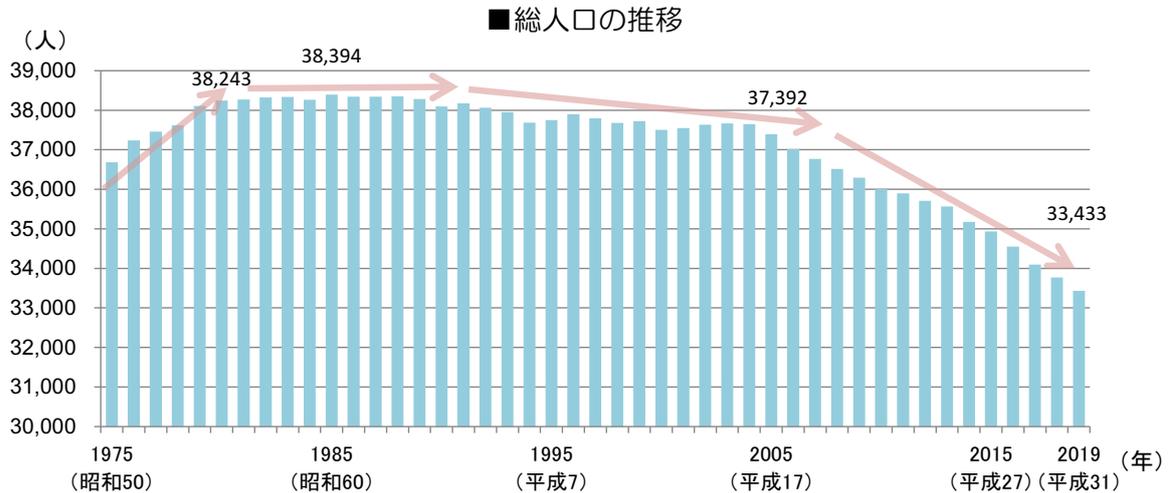
ワークショップは、「学び」「創造」「問題解決」「トレーニング」の手法であり、まちづくり分野においては、地域にかかわる様々な立場の人々が参加して計画策定のためのアイデアや意見抽出の手法として用いられています。格式ばった会議よりも、カフェのようなリラックスした環境の中で自由におしゃべりすると、おのずと自分の思いや考えが発言でき、相互理解を深めていくこともできるものです。

行政においては、近年、計画策定のためのアイデアや意見抽出の手法として、ワークショップを取り入れておられますが、今後も市民からの意見を求める際には、パブリックコメントと合わせて、ワークショップの開催を希望します。

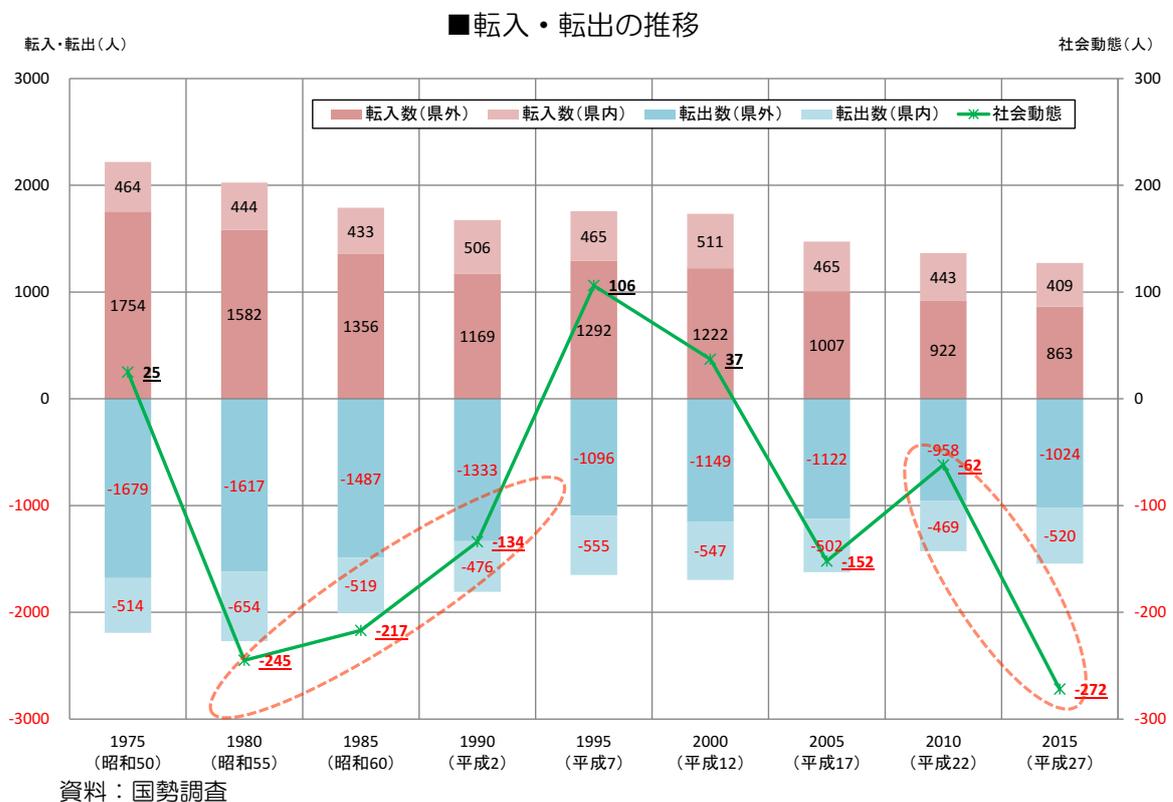
また、私たち市民の側も、自治会や市民活動において課題解決をするために、ワークショップが活発な意見交換につながり効果的であることから、ワークショップを用いることを促進していきたいと考えておりますが、実践する際には、運営方法についての支援策等をお願いします。

2. 境港市の人口の現状と課題

境港市の人口は、平成 31 年 3 月時点で 33,433 人となっています。経年での変化を見ると、昭和 60 年の 38,394 人をピークに減少傾向に転じ、平成 17 年以降は減少幅が大きくなっています。



境港市の転入・転出の推移をみると、平成 17 年以降は社会減の状態が続き、平成 27 年には 272 人の社会減となっています。



よって、U・Iターンを促進し、人口を増やしていく必要があると考えます。

3. 活動報告

これらの現況を踏まえ、私たちは、今期の取組テーマを「U・Iターンしたくなるまちづくり」に定め、以下のワークショップを実施しました。それぞれのワークショップで出た意見や感想は別添の「資料編」をご覧ください。

① 高校生と大学生とのワークショップ（ワールドカフェ）

鳥取県立境高等学校・鳥取県立境港総合技術高等学校・国立大学法人島根大学法文学部行政学ゼミから学生を招き、ワールドカフェを実施し、若者から率直な意見を聞きました。

参加者：委員9名、市内高校生18名、島根大学生11名、每熊アドバイザー

テーマ
「境港の好きなところ・嫌いなところは」
「あなたは境港に残りたいか（いずれは戻りたいか）」その理由は
「あなたの将来の夢は・就きたい職業は」
「境港（出身地）について地域・学校・家庭で学んだことは」
「境港に残る人・戻る人・住んでくれる人を増やすためのアイデアは」
「大学生と話そう」



② 高校生と大学生のワークショップ（模擬審査会「こんなイケン？」＋ワールドカフェ）

前回の高校生からの意見に対し、「こういう見方はどう？」と、大人からの異見を出し、高校生が採点・評価する模擬審査会を行いました。

そのあと、ワールドカフェを実施し、意見交換を行いました。

参加者：委員9名、市内高校生21名、島根大学生10名、每熊アドバイザー

テーマ	前回のワールドカフェでの高校生からの意見
楽しくない	遊ぶところがない／ラウンドワン（スポーツができる施設）がない／映画館がない／水族館がない／パチンコ屋が多い（子どもが遊べる場所は？）／服屋がない
暮らしづらい	交通の便が悪い／電車・バスの本数が少ない／電車を待つ場所がない／買い物難民／境港は住むというより観光地
誇れない	アピールポイントが魚と妖怪しかない／米子に負ける
働けない	働ける場所がない／境港では夢が叶わない



③ 移住者と大学生とのワークショップ（「Youは何しに境港へ？」）

境港市にIターン・Uターンされてきた方を対象に広く参加を呼びかけ、ワールドカフェを実施しました。

参加者：委員10名、移住者9名、島根大学生7名、每熊アドバイザー

テーマ
①私は何しに境港へ？
②境港市の良いところ・悪いところ
③境港市をより良いまちにするには （U・Iターン進めるには？）



4. 会議開催経過

年度	回数	日時	内容	参加者
平成 30年度	第1回	平成30年 3月28日	委員による今期の取組テーマについての協議	委員12名
	第2回	平成30年 5月9日	委員による今期の取組テーマについての協議	委員8名
	第3回	平成30年 7月5日	委員による今期の取組テーマについてのワークショップ	委員12名、 每熊アドバイザー
	第4回	平成30年 8月7日	委員による今期の取組テーマについての協議	委員10名
	第5回	平成30年 11月12日	①高校生と大学生とのワークショップ	委員9名、 市内高校生18名、 島根大学生11名、 每熊アドバイザー
令和 元年度	第1回	平成31年 3月28日	委員による今期の取組テーマについての協議	委員10名
	第2回	令和元年 5月9日	委員による今期の取組テーマについての協議	委員9名
	第3回	令和元年 8月23日	委員による今期の取組テーマについての協議	委員9名、 每熊アドバイザー
	第4回	令和元年 11月11日	②高校生と大学生のワークショップ（模擬審査会「こなんイケン？」+ワールドカフェ）	委員9名、 市内高校生21名、 島根大学生10名 每熊アドバイザー
	第5回	令和元年 12月7日	③移住者と大学生とのワークショップ（「Youは何しに境港へ？」）	委員10名、 移住者9名、 島根大学生7名、 每熊アドバイザー
	第6回	令和2年 3月12日	委員による今期の取組テーマについての協議（事業報告書の作成）	委員10名

5. 委員等名簿

・委員

氏名	市民活動団体名等	備考
足立 勲	公募（中野町自治会）	
糸川 諒	国立大学法人島根大学法文学部	
岩本 和貴	公募（第一中学校区学校運営協議会）	
遠藤 恵子	境港更生保護女性会	
遠藤 緑	境港市まちづくり若者委員会	
門脇 京子	境港中国文化研究会	副会長
徳尾 勝	境港市民総合ボランティアセンター運営協議会	
松田 真二	境港市民総合ボランティアセンター運営協議会	
松本 信子	境港市民総合ボランティアセンター運営協議会	
松本 幸永	さかいみなとウィンドアンサンブル	会長
渡部 敏樹	自然農法園 さかい夢の浜	
渡邊 冬樹	境港青年会議所	

（敬称略、50音順）

・アドバイザー

每熊 浩一	島根大学法文学部教授
-------	------------

・事務局

境港市総務部地域振興課企画係

まちづくりのためのワークショップ実践報告

～一例として～

1. ワークショップについて

ワークショップとは、参加者が自発的に作業や発言をおこなえる環境が整った場において、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役を中心に、参加者全員が体験するものとして運営されるものです。

まちづくり分野においては、行政などが地域にかかわるさまざまな立場の人々と一緒に、地域社会の課題を解決するための意見交換をしたり、計画を策定するためのアイデア出しや市民の意見のすくい上げに使うことが多くあります。

一口にワークショップと言っても、色々な種類のワークショップがありますが、一般的に、班に分かれて、1班4～5人程度でいくつかのテーマについて話し合い、最終的に、班ごとに発表するというスタイルが多いです。班には一人ホストがおり、進行役として会話を回していきます。

第6期みんなでまちづくり推進会議では、「ワールドカフェ」と委員・大学生がプレゼンテーションを行い、高校生が採点を付けるという「模擬審査会」を実践しましたので、一例として報告します。

2. ワールドカフェについて

ワールドカフェとは、カフェテーブルでゆったりした気分で話し合うことで、生き生きとした意見交換や新たな発想の誕生が期待できるという考え方に基づいた話し合いの手法です。BGMをかけ、お茶・お菓子を飲食しながら、参加者が班に分かれ、意見を模造紙に記入・もしくは付箋に書いて貼るとというのが一般的な形式です。

一般的なワークショップでは、最終的に発表を行います。ワールドカフェにおいては、発表は行いません。ワールドカフェは意見交換を通じて各人が「気づき」を得ることがねらいであり、特定の意見を取捨選択したり、結論を出すということはありません。また、「対話」をすることはあっても、意見を戦わせるような「議論」をするということもしないのが鉄則です。

また、一般的なワークショップでは、全てのテーブルで同じテーマについて話すことが多いですが、ワールドカフェは時間ごとにテーマ・メンバーを変えることで参加者がより多くの方と意見交換し、組み合わせにより様々な意見を出させることが図れます。また、第6期みんなでまちづくり推進会議では発表をしない代わりに、最後には、みんなで各テーブルを見て回りました。

(1) 用意したもの

模造紙、付箋、マジック・ボールペン、飲み物、お菓子、菓子皿、BGM、ゴミ箱（各テーブル用）、ゴミ袋（全体用）、アンケート・アンケート回収箱、カメラ（撮影用）、参加者名簿、その他必要に応じて、配布資料、名札、PC、マイク、アンプ等々…



(2) 事務局のしたこと

事務局はワールドカフェに必要な物品をきちんと用意することはもちろん、事前の広報や準備なども行いました。人数の管理は、参加人数によって、班の数も変わってきますので、特に気を付けました。参加人数が決まった時点で班分けをし、ホストも決めました。ホストは班の進行役であるため、ワークショップ経験者の人をお願いしました。

当日、ワールドカフェをする際に、突然、「このテーマでどうぞ!」としても会話は弾まないと思い、事前に資料を作って配布したり、ワールドカフェをする直前に事前説明（話題提供）をしました。

ワールドカフェが始まれば、時間の管理と会場の様子の撮影をしました。時間が押してしまうと、席替えができなくなり、すべての人がすべてのテーマについて話すことができなくなるので、特に気を付けました。撮影した写真は、後日、出た意見と当日の様子をまとめてホームページに公開しました。終了後には、アンケートも取っておき、参加者の意見を確認したり、次回開催の要望や、次回への改善点などの把握に努めました。

ポイント💡

- ・人数の管理はしっかりと。
- ・時間の管理と写真撮影を忘れない。
- ・アンケートで参加者の反応を確認し、次回開催に生かしましょう。

(3) 司会者のしたこと

第6期みんなでまちづくり推進会議では、司会者を毎熊浩一アドバイザーにお願いしました。毎熊アドバイザーは、ワールドカフェの直前に「アイスブレイク」をされました。「アイスブレイク」とは直訳すると“氷を壊す”という意味で、参加者の緊張をほぐすために少し変わった自己紹介などをするのです。

②高校生と大学生のワークショップ（模擬審査会「こんなイケン？」+ワールドカフェ）では…

○気になる有名人を書かせる

テーブルに名前シールを置いておき、そこに「気になる有名人を書いてください」と指示。司会進行の際に、「それが今日のあなたの名前です」と言い、自己紹介の際には、なぜ気になるのかを発表させる。

③移住者と大学生とのワークショップ（「Youは何しに境港へ？」）では…

○円になり、順番に自己紹介

自分のことと今年気になったニュースを自己紹介し、紹介する際には、「〇〇が気になる△△さんの次の…」と順番に紹介していく。

そのほか、司会者はワールドカフェ中には、色んな班を回り、話を聞いたり、意見交換に参加したりして、班に会話を弾ませるのに協力します。

ポイント💡

- ・アイスブレイクで参加者の緊張をほぐして、意見交換に繋げましょう。
- ・会話が止まっている班があれば、会話に加わってみましょう



(4) 参加者のしたこと

委員は、自分だけが話すのではなく、参加してくれた高校生や大学生、移住者の意見をじっくり聞くことに努めました。

ポイント💡

- ・自分だけがずっと喋っていたり、人の話を遮ったり、強く反論したりすることはやめましょう。参加者みんなが気軽に発言ができる場づくりに協力することが大切です。

(5) ホストのしたこと

ホストは班の中での進行役です。通常、ホストは1人であることが多いですが、第6期みんなでまちづくり推進会議では、ホストを委員1人と大学生1人という形で実施しました。

委員は、会話に入れていない人に話題を振ったりして、意見交換を促しました。

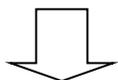
大学生は、高校生という若い世代の参加者、移住者という地元を離れた参加者が相手ということもあり、どちらにも立場が近く、うまく間に入って班の中の会話を弾ませてくれました。

ポイント💡

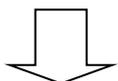
- ・ホストは、人に話を振ったり、場合によっては、話しすぎている人を制したりも必要です。
- ・会話に入れていない人がいたら、話を振ったり、相槌を打ったり、根気よく話を聞いて輪に入るのを促しましょう。

3. ワールドカフェの流れ

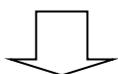
①企画立案（ワールドカフェの実施・テーマ・司会者の決定）



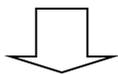
②広報・参加者呼びかけ



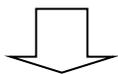
③参加者確定・班分け・正式案内



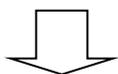
④お菓子・飲み物・その他必要物品調達



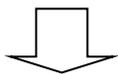
⑤会場設営・参加者出席確認



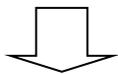
⑥会が開始：事務局から挨拶・事前説明（話題提供）



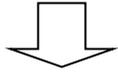
⑦司会者によるアイスブレイク



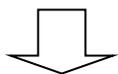
⑧ワールドカフェの開始



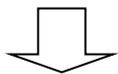
⑨15分～25分程度で席替え（これを参加人数により何セットかする）



⑩ワールドカフェ終了。みんなで各班を見て回る。必要に応じて感想も聞く



⑪会が終了。アンケート改修。会場の撤収



⑫意見をとりまとめ、写真と共にHP等で公開

4. 模擬審査会について

最後に、「模擬審査会」についても触れておきます。

先述のとおり、ワールドカフェは意見交換を通じて各人が「気づき」を得ることがねらいです。しかし、第6期みんなでまちづくり推進会議でも高校生を相手にワールドカフェを実施しましたが、意見を引き出すことを重視した結果、高校生の意見は分かりましたが、高校生の方にどれだけ大人の意見が伝わったのかという懸念がありました。

そこで、第6期みんなでまちづくり推進会議では、「こんなんイケン？」と題して、大人の“異見”を高校生に審査してもらう模擬審査会を実施しました。

審査方法は、昨年実施したワールドカフェで特に多かったマイナスな意見をテーマに決めて、まず、大人（委員・大学生）が5分ほどプレゼンテーションを行い、それについて、高校生が採点用紙に点数を記入するという形にしました。例えば、「遊ぶところがないから楽しくない」という意見に対し、「隠れスポットを探すといった新しい楽しみを発見してはどうか」という提案をプレゼンテーションしました。テーマ・採点方式は以下のとおりです。

テーマ	前回のワールドカフェでの高校生からの意見
楽しくない	遊ぶところがない／ラウンドワン（スポーツができる施設）がない／映画館がない／水族館がない／パチンコ屋が多い（子どもが遊べる場所は？）／服屋がない
暮らしづらい	交通の便が悪い／電車・バスの本数が少ない／電車を待つ場所がない／買い物難民／境港は住むというより観光地
誇れない	アピールポイントが魚と妖怪しかない／米子に負ける
働けない	働ける場所がない／境港では夢が叶わない

採点形式（5点満点）		
5点：共感できる	4点：まあ共感できる	3点：普通
2点：あまり共感できない	1点：共感できない	

ここでは「共感」という言葉を使い、対決姿勢とならないよう工夫しました。採点用紙にはコメントも記入できるようにし、高校生がどのような評価をしたか後で確認できるようにしました。

実際のプレゼンテーションの要旨（抽出）・点数は次のとおりです。

テーマ	プレゼンテーション要旨（抽出）	採点結果
楽しくない	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい楽しみを発見するのも「楽しみ」 ・「隠れスポットを探す」「歴史を調べてみる」を提案 ・水族館はないが、海とくらしの史料館というほかにはない、はく製の博物館がある。 	3.2点
暮らしづらい	<ul style="list-style-type: none"> ・「運送用ドローン」・「シェアリング」を提案 ・災害に強いところも利点 	3.9点
誇れない	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力が「2つしかない」のではなくて「2つもある」 ・境港の魅力に気づくことが大事。地元のイベントに参加したり、観光地を見て回ることを提案したい。 	3.9点
働けない	<ul style="list-style-type: none"> ・境港で働いている人は16,000人くらいいる。働く場所がないわけではない。 ・境港の海や自然を生かした分野というのは、今後、AIが普及しても、取って代わられない分野。そういう将来性も考えてみても良いかもしれない。 	3.8点



プレゼンテーション後は、何人からか感想も聞き、質疑応答も行いました。採点結果のとおり、一定の共感は得られたものの、高校生からは「大人向け」「働く場所がない」というより、「働きたい場所がない」だと思ふ」といった意見もあり、大人からの提案に大賛成とはなりませんでした。終了後は、テーマごとに班に分かれ、ワールドカフェを実施し、採点結果も踏まえながら、意見交換をしました。

アンケートは、実施前と実施後の2回行い、意識の変化を確認しました。具体的なプレゼンテーションの内容や高校生の感想、アンケート結果については、別添の「資料編」をご覧ください。